

伊勢議員の質問

情報発信の強化で 過去最高に

3月議会の一般質問で伊勢純議員は、今春卒業の高校生の就職状況を取り上げましたが、新規学卒者の気仙管内就職が過去最高になっていることが明らかになりました。

戸羽市長の答弁で、「気仙管内の新規学卒者の内定 120 人のうち 73 人、60.8%」と述べ、その要因について、公共職業安定所や、県、商工団体などと連携した、「企業と高校就職担当教諭との意見交換会や「じょぶなべ広場」、「お仕事広場in気仙」などの開催を通じ、地元企業の情報発信の強化や

マッチングを精力的に行ってきた成果」と強調しました。

就職内定の状況

平成 31 年 1 月現在

区 分	内定者	割 合	備 考
気仙管内の企業	73	60.8%	前年比 9.6%増
県内企業の企業	18	15.0%	
県外企業の企業	29	24.2%	
	120人	120人	

市民文化会館、夢アリーナ

災害復旧と復興交付金を積極的に活用 藤倉議員の質問

藤倉泰治議員は、国の災害復旧制度を活用した公共施設の整備について質問。はじめに、同議員は公共施設の復旧について、一部に「ハコモノ」「無駄」「過大な施設」と言われていることから、大きな被害にあった場合の国の災害復旧制度による復旧事業であると主張し、市の考えを尋ねました。

岡本雅之副市長は、とくに「災害復旧事業に係る補助金の他、復興付金、震災復興特別交付税等の復興財源を活用を優先させてきた」と強調。

(仮称)市民文化会館は、旧市民会館と中央公民館を合わせた面積で市の追加負担が伴わないことを回答。総合交流センターについては、市民体育館と海洋センターを合わせた面積が上限だったが、大規模なイベントの際に体育活動が制限されることから、災害復旧とは別に国の復興交付金メニューである津波防災拠点支援施設として多目的ホールを整備してきたことを明らかにしました。また、維持管理費については、太陽光発電やチップボイラーの活用などランニングコスト低減に努め、9千万円を下回る見込みと答えました。



◎多目的ホール 津波防災拠点施設支援施設の役割も

夢アリーナたかた

(総合交流センター・B&G海洋センター)

●工事費

予算区分	工事費
保健体育施設費分	27億2千万円
災害復旧費分	29億3千万円
合計工事費	56億5千万円

●維持管理費 設計で試算の約9千万円を下回る見込み(平成30年度)

新規事業 新生児の聴覚検査に助成、100人分を予算化

大坪議員が質問

市長が安心して出産できる健康診査を重視していますが、大坪涼子議員は、「14回の妊婦健診の助成や、新生児の健診の新たな支援」を質問しました。

菅野利尚民生部長は、「妊娠8週から出産まで14回の健診で1人当たり11万円を助成し、本年度は89人の届出があり未受診者はない」と答えました。

また、新生児聴覚検査へ新たな助成を予算化しました。その検査によって、先天性聴覚障害の早期発見・療育になるといわれています。検査は、出生後3日頃の新生児に眠った状態で行い、ささやき声程度の刺激音に対しての脳波反応があるかどうかで、聞こえの状態を確認するもの。

検査費用は現在全額自己負担であり県立大船渡病院では役1万8千円の検査費用。市では、「新年度より一人当たり1万円の助成を行い、100人分を予算化した」と回答しました。

聴覚障害は、早期発見が重要といわれていることから、助成によって、検査がすすみ、子どものコミュニケーション能力や言語の発達の面で効果が期待されます。